

7月9日（水）大津市立坂本小学校を訪問しました！

学校・地域・家庭が前向きに参加できる持続可能な地域連携をめざして

対談テーマ

坂本小学校では昔から地域の方々の児童との交流や地域・保護者の方々による児童支援活動を行っています。この日は地域の方との交流の場、ふれあいルームの参観、6年生の総合的な学習の時間の参観いたしました。PTA 活動や地域との連携が薄れていく昨今、どのような形で学校・地域・家庭が連携して子どもたちを支えているのか、今回は坂本小学校をずっと支えてこられた地域の方とともに対談を行いました。

訪問した教育委員

土井 真一 委員 野村 早苗 委員 塚本 晃弘 委員 森 和之 委員

大津市立坂本小学校について



坂本小学校では週2回の昼休みに地域の方と児童が交流するふれあいルームが開かれています。また、年間を通じて、どんど焼き、お茶席体験、読み聞かせなど地域の方の協力のもと、様々な学校行事に取り組んでいます。保護者との連携も強く、様々な行事や活動で協力を得ながら学校教育を進めておられます。

意見交換より

委員：多くの学校でPTAの加入率が低下する中、どのようにして活動を継続させているのかを教えてください。

学校：坂本小のPTAの加入率は高く、低学年の保護者が役員になってくださったたり、これまでの役員さんが現在の役員さんをサポートしてくださったりしています。また、ボランティアという形で校区内の校外学習の引率やプールの監視など協力してくださっています。子どもの成長をそばで見守るという活動を通して、保護者のみなさんに安心してもらえるような環境を作っていきたいと考えています。

委員：子どもたちはふれあいルームの交流があるから、今日のように外部の者が突然来ても素直に受け入れてくれるのだと実感しました。

委員：私が住んでいる地域の小学校では坂本小と異なっており、地域やPTAの協力があまり得られていないように感じます。坂本小でやっておられる方法を他の地域で取り組むことで、坂本小のように地域連携はうまくいくと思いますか。

学校：地域連携の状況は地域によって差があるのが実態です。坂本小には地域連携の核となる人材がおられ、学校との交流を密にいただき、学校も地域行事に積極的に参加しています。同じようなことを他校で取り組むには、時間がかかるケースもあると思います。

学校：地域行事に参加するということは、働き方改革の視点から見ると一見逆行しているように思われるかもしれませんが、お互いが協力し合える関係になることが働き方改革につながると考えています。

委員：ふれあいルームを作った目的や、今どのように運営されているのか、どうやって支援者を募っているのか教えてください。

地域：約21年前、地域の高齢者と子どもたちの交流を目的に、坂本菊の栽培、お茶席体験、どんど焼きをメインに子どもたちの居場所になればと思い運営を続けてきました。今は4～5人くらいで運営していますが、大きな行事の時にはたくさんの地域の方が手伝ってくださっています。

委員:ふれあいルームにあるおもちゃはどのようにして用意されたのでしょうか。また、活動に参加されたきっかけは何でしょうか。

学校:教室のおもちゃは予算(公費)で購入しました。

地域:私は自分が退職をしたとき、何をしようかと考えていました。たまたま家の近くが学校の通学路であり、これまでも危ないと感じていました。通学路に立つことくらいなら自分もできると始めてみると、子どもたちが「今日こんなことあったで!」といろいろなことを話しかけてくれるようになり、すごく楽しくなって、子どもたちからパワーをもらっていると感じました。孫が入学するタイミングでふれあいルームの誘いがあり、学校に行きたいと思っていたので引き受けました。週2回40分の時間がとても楽しくて、次はどんなことをしよう、と思っています。自分自身が楽しい時間を過ごさせてもらっています。



委員:「学校夢づくりプロジェクト」について、協力先はどのようにして探しているのですか。

学校:基本的には子どもと委員会担当の教師とのやりとりの中で出てきた意見を取り入れています。予算をつけていただき、子どもたちのアイデアを形にするということはなかなかできることではありません。児童昇降口の風鈴も2年前に子どもたちが作成したもので、毎年夏になると教師が飾り、子どもたちも毎年その風鈴が飾られるということを知っています。「学校夢づくりプロジェクト」でやってきたことをその場限りにせず、職員で受け継いでいきたいと思っています。

市教委:「学校夢づくりプロジェクト」で取り組む内容は基本的に学校に任せていますが、子どもたちの思いや発想を大切に、それを学校の原動力にしてほしいと期待しています。市内には坂本小のように昔から地域連携に取り組んでいる学校もあります。「学校夢づくりプロジェクト」が地域連携のきっかけになればと思っています。

委員:地域と連携していくには子どもたちが地域を理解する必要があり、そして地域も子どもたちを理解していないと解決することが難しい課題が出てくると思います。そこが欠けてしまうと学校が抱える課題の解決も難しくなると思います。教師が地域の行事に参加することや、交流の場に参加することを、働き方改革だからと一掃してしまってもいいのかどうか一概には言えないと思います。

地域:学校・地域・保護者の連携はとても大切です。一番土台となる地域が時代と共に変化していると感じます。坂本学区も高齢者が多い地域もあれば、畑が宅地化されて他の学区からたくさんの方が入ってこられる地域もあり、自治連合会の在り方も転換期だと感じています。坂本学区もこれまで様々なことがありましたが、地域のお祭りなどで子どもとつながっている部分もあります。そういったこの地域にしかないものをこれからも大切にしていきたいし、我々のような学校を知っている者が発信していきたいと思っています。また、新しくこられた方をどう巻き込んでいくか考えながら、これまでのつながりを大切にしていきたいと思っています。

